対象：中学生・高校生

時間：50分程度

|  |  |
| --- | --- |
| ねらい | ◯　妊娠後期（40週）の妊婦を体験することで、妊娠時の重量感、圧迫感、動きにくさに気付く。また、体験を通して、妊娠期の身体的大変さが分かり、周囲の人々が助け合うことの大切さについて意見交換し、自分にできることを考える。 |
| 実施のポイント（評価など） | ◯　積極的に妊帰体験に取り組むことができる。◯　性別に関わらす、社会の一員として、生命をはぐくむことについて考えることができる。◯　妊娠中の体型を胎児の発達の様子と関連付けて理解し、周囲の配慮の必要性に気付くことができる。 |
| 事前準備 | ◯　あらかじめ４～６人のグループに分かれておく。　（同性同士あるいは混合で参加対象により編成する。体験者の装備介助に２名必要）◯　筆記用具　　◯　ワークシート　　◯　アンケート用紙（必要に応じて）◯　シミュレーショングッズ（ない場合はリュックサック、ビニール袋、水（３～４㍑）、エプロン）※シミュレーショングッズの貸出については、市町村の関係課等にお問い合わせください。◯　資料　　◯　マタニティマーク（ステッカーまたは写真）　　◯　椅子　　◯　安定した履き物※ファシリテーター（またはスタッフ）はできれば複数名が好ましい。（シミュレーション数＋１） |
| 時　間 | 学習活動 | 学習活動のねらい（◎）とポイント（・） | 準備物 |
| 10分‬‬**導 入** | ・ワークの趣旨説明・３つの約束・マタニティマーク提示 | ・マークの存在する意味について、妊婦体験を通して考えることを説明する。 | 資料１３つの約束マタニティマーク |
| 20分‬**展 開**※1人あたり５分程度 | **ワーク1**・グループで体験者、観察者の役割を決める。・妊婦体験セットを体験者に装着する。・体験及び観察を開始する。・体験・観察しながら話し合う。 | ◎ワーク1・2では、妊娠時の重量感、圧迫感、動きにくさを体験し、周囲の人々が助け合うことの大切さに気付くことをねらいとする。・妊婦体験の方法について説明する。※体験セットの内容について、胎児の発達の様子と関連付けながら行う。（資料参考）※装着の仕方と注意事項について※動作の内容と順番について※体験・観察のポイントについて・シミュレーターは妊娠８か月以上を想定していることを伝える。・グループごとに順番で体験をスタートし、観察者は装着介助をするように伝える。・急激な過重があるため、行動には十分気をつけるように伝える。（履き物、跳ぶ、体のねじ曲げ、急な動作は避ける。）・肩・腰・足等負担がかかるためケガや痛みがある人は行わない。体調に不具合があればすぐに中止する。・安定した履き物で行う。 | ワークシート資料３の①シミュレーショングッズ※シミュレーショングッズがない場合は資料３の②椅子安定した履き物等 |
| 10分 | **ワーク2**・時間の経過とともに感じたこと （観察者は体験者の変化）をグループで話し、各自記入する。・体験セットを片付ける。 | ・体験が終了したら、動作をして感じたこと、観察したことをワーク1、2に各々の立場で記入するよう伝える。 | ワークシート資料２ |
| 10分‬**まとめ** | **ふりかえり**・気付いたことや今後の行動について記入する。・数名発表し、全体で共有する。 | ・様々な考えがあってよいことを伝える。・一人ひとりが社会の一員として、生命をはぐくんでいること、自分にできることを考え、皆に伝える。 | ワークシート |